



次の夢は、  
グラウンド・ゴルフの国際組織を作ること。

泊港のそばにある小さな山が、甲亀山。海を見下ろすこの絶景のBGMは、木を打つような音と賑やかな歓声だ。ここは「潮風の丘とまり」。グラウンド・ゴルフ発祥の地である。全国的に高齢化が加速した1980年代。旧泊村も例外ではなく、当時の村長が中心になって、文部省(現・文部科学省)の補助事業採択のため、国や県に奔走。1982年に、「生涯スポーツ活動推進事業指定市町村」の指定を受けた。

「そこから、私の所属していた教育委員会を中心に、高齢者も楽しめる新スポーツの開発に取り組みました」

河本清廣さんは、小中高と卓球やバレーに夢中の体育会系。プロジェクトチームの一員として、大阪教育大学の教授や老人クラブ連合、体育指導員たちとゼロから「高齢者に相応しいスポーツ」の開発に奔走した。

そうして生まれたのが、「グラウンド・ゴルフ」。いつでもだれでも、グラウンドがあればできるこのゴルフは、NHKの取材から火がつき、「時代に合ったテーマ」として、全国的に普及していく。初心者でも身障者もハンデなしで楽しめる「発逆転ルール」などゲーム性が高く、競技というよりまさに生涯スポーツだ。

「日の終わりに、焼酎のお湯割りを傾けながら想う次の夢は、グラウンド・ゴルフの国際組織を作ること。」

「ナイス・トマリ！」を世界へ。

鳥取県グラウンド・ゴルフ協会 理事長  
河本清廣



ゆ  
う  
ゆ  
う、  
ゆ  
り  
は  
り  
ま